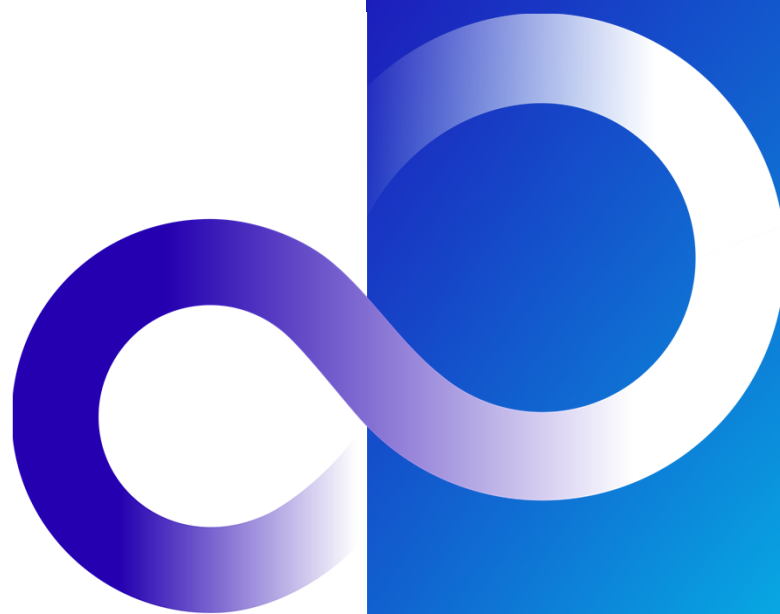


食品メーカー様への 導入事例

富士通株式会社



お客様情報

業種：食品製造・販売

国内に自社工場と複数の物流センターを持っており、
各物流センター毎の商品の入庫・出庫・在庫管理を行ってる。

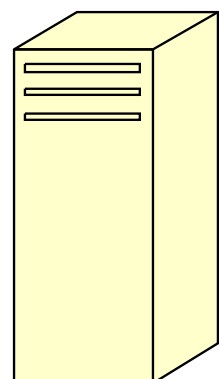
需給調整部門の業務概要

【需給計画策定業務】

毎週一回、出庫実績・在庫実績・入庫実績を元に、未来の需要計画・供給計画を策定

【在庫管理業務】

日々、計画と実績を管理する事で在庫管理を行う、また商品が欠品となりそうな場合、
生産を依頼する。



随時手動による実績のダウンロードと加工を行う。



需給計画を策定し、
策定結果をファイルで
連携する。



販売管理システム

需給調整部門

生産管理部門

2. お客様の悩み

No.	悩み	原因	
		共通	個別
1	需給計画策定及び計画確定までの業務負荷が高い。	• 随時手作業で基幹システムからデータをダウンロードして加工し、そのファイルで部門間連携を行っている。 • 管理する商品数が多い。	• 需要計画や供給計画は、1 昨年・昨年・当年実績を元に 1 商品単位に策定しているため時間がかかる。 • 需給調整部門や生産管理部門が各々計画値を策定しているため調整作業が必要になる。 • 営業から特需の注文に対する連絡手段が電話やメールが主のため、記録を後から検索するのに時間がかかる。
2	全社として最適な在庫管理が不十分である。		• 全社視点を考慮した上で、物流センター毎に適正在庫を決めるルールが明確になっていない。 • 未来の直近 1 週間の欠品を把握することは可能だが、それより未来の在庫推移を把握できない。

FOREPALSで解決を支援致します

© 2022 Fujitsu Limited

悩み

2. 全社として最適な在庫管理が不十分である。

解決方法

2.在庫推移の見える化と気付き

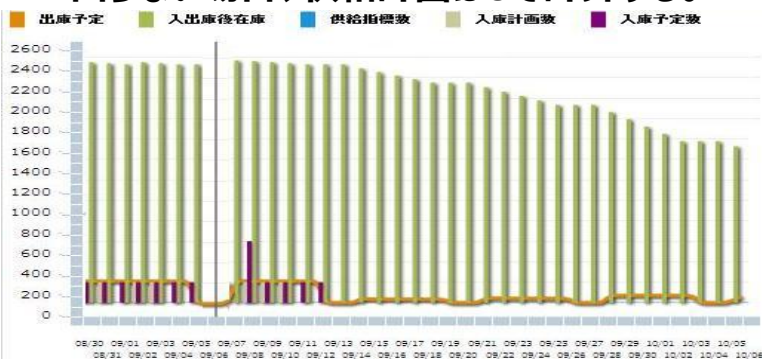
- ①出庫実績や在庫実績などを取込み、未来の需要計画・供給計画を元に在庫シミュレーションを行い、未来の供給計画の算出と在庫推移の見える化を行う。
- ②過少在庫となる商品はアラーム対象として抽出し、欠品に対する早期発見を促します。また特需の注文をメモ情報として連携することで確実な情報伝達を行う。

効果

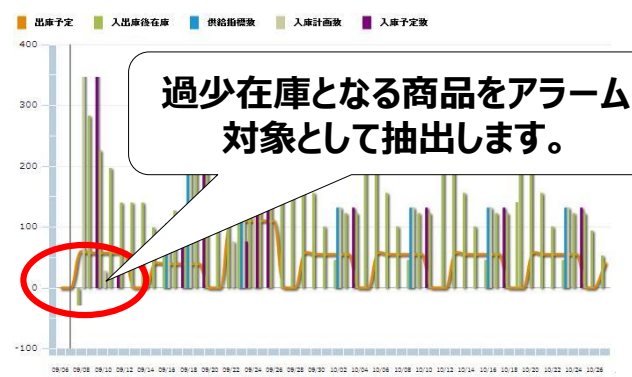
2.在庫管理業務の負荷軽減。

- ①供給計画を算出するための安全在庫数量などの情報を見える化し、供給計画数量を算出するルールを決めることが出来た。
- ②未来1週間以上先の在庫推移を把握できるようになったため、早い段階での欠品が発生しないよう対処できるようになった。

未来の需要計画と在庫実績から在庫の基準を下回らない場合、供給計画は0で計算する。

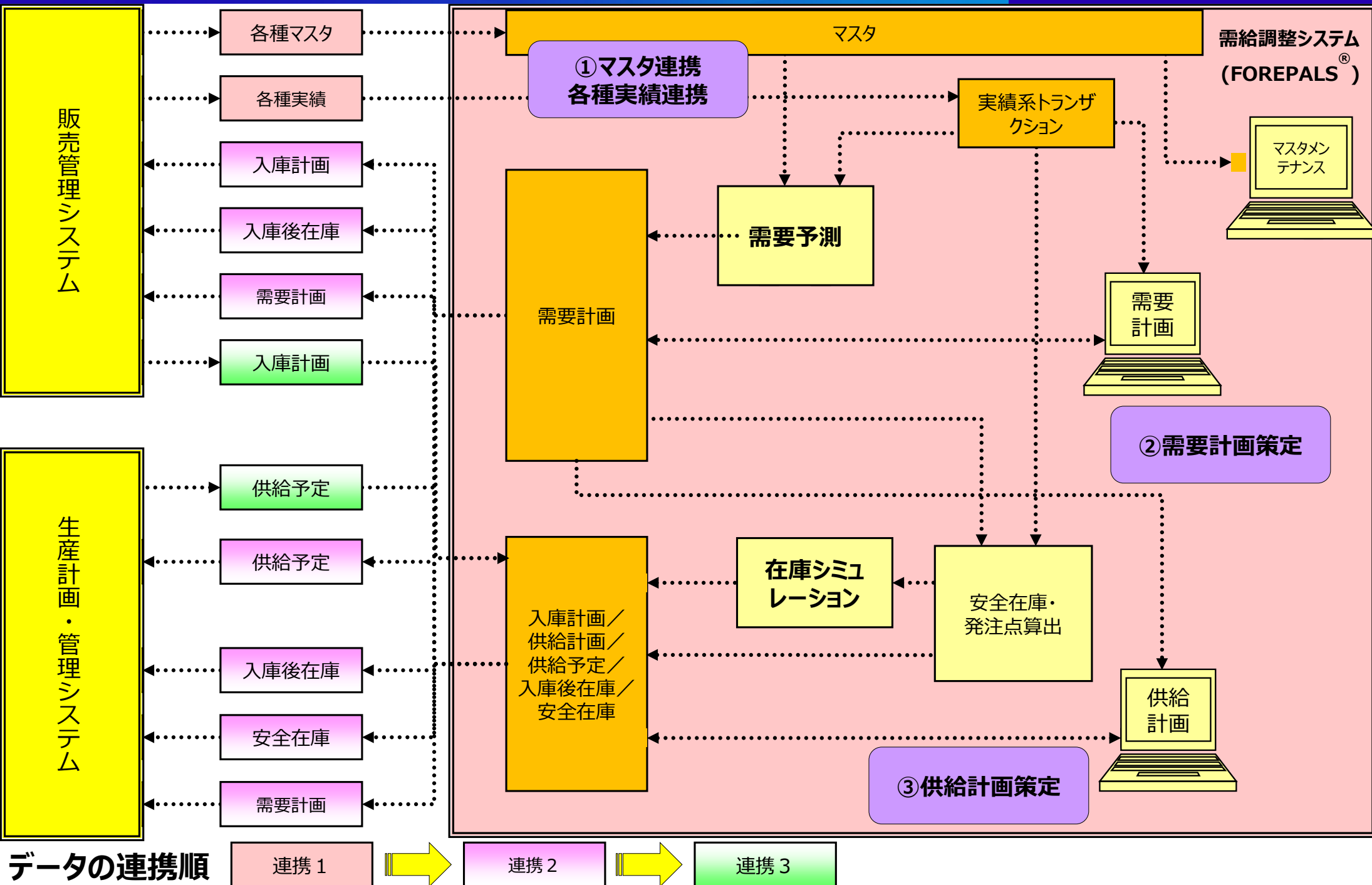


在庫推移の見える化



過少在庫となる商品をアラーム対象として抽出します。

4. システム概要



Thank you

